

研究活動報告

九州大学大学院工学研究院公開講座 「地球環境とエネルギー（大気、海洋、大地と人）」

九州大学大学院工学研究院公開講座「地球環境とエネルギー（大気、海洋、大地と人）」は、箱崎キャンパスの国際ホールにおいて、2002年6月15日から7月20日までの毎土曜日に開催された。工学研究院の環境システム科学研究センターに所属する江崎哲郎教授は、第1回の「地球の歴史と人類の活動」において、環境の危機を招く要因のひとつとして人口増加をとりあげた。最終第6回では、筆者が「人口問題と地球環境」のタイトルで次の構成の講演を行い、また、受講生からの活発な質問に回答した。

1. 世界人口の推移
2. 人口をめぐる論争
3. 世界の現状にみる人口の影響
4. 人口問題へのとりくみ

なお、配付資料、受講生の感想等は、環境システム科学研究センターによって公開講座資料集『地球環境とエネルギー（大気、海洋、大地と人）』（ISBN：4-901565-03-6）にまとめられている。

（今井博之記）

第3回 JBIC シンポジウム

2002年7月18日、国際協力銀行（JBIC）は如水会館（東京）にて第3回 JBIC シンポジウム「21世紀の開発援助戦略：地球規模問題、地域問題」を開催した。政府関係者、在京大使館、国際機関、民間企業等からおよそ200名が参加した。今回のシンポジウムは、JBICの開発金融研究所が開発援助において今後重点的に対処すべき課題を抽出し検討した「21世紀の開発援助戦略」調査をもとに、21世紀のグローバルな開発課題や地域別課題に関して議論をおこなうことを目的としたものである。同研究所の宮入宜人副所長の全体司会により、以下の基調講演、講演およびコメントがなされた。

第1部：地球規模問題：モデレーター：篠塚 徹（拓殖大学国際開発学部）

- ①「ポスト9.11の世界と開発協力」高橋一生（国際基督教大学国際関係学科）
- ②「政策、地球規模の公共物、所有権及び集団行動の役割」マーク・コーエン（IFPRI）
- ③「人口、保健医療、社会福祉及び年金制度」佐藤龍三郎（国立社会保障・人口問題研究所）
- ④「21世紀におけるアジア型防災戦略を考える：パラダイム転換と日本の役割」岡田憲夫（京大大学防災研究所）

⑤コメント：林 薫（国際協力銀行開発金融研究所次長）

第2部：地域問題：モデレーター：藤本耕士（国際協力銀行開発金融研究所所長）

- ①「アジアの貧困について」絵所秀紀（法政大学経済学部）

- ②「南アジア：域内協力と開発」ラケシュ・モハン（ICRIER）（代読）
- ③「中国：ITマネジメントと貧困削減」ファン・ガン（NERI）
- ④「東南アジア：自助努力とガバナンス」マリオ・ランベルテ（PIDS）
- ⑤「アフリカ：貧困削減のための課題：制度・教育・保健・農業・貿易」ドミニク・ニジンク（AERC）
- ⑥コメント：モンテ・カセム（立命館大学政策科学部）

本シンポジウムは開発援助の観点から催されたものであり、国際政治、国際経済、国の制度や行政のあり方など一般に人口の分野では論じられないテーマも多かったが、現実の動きに立脚したものであり、興味深いものがあった。今後、人口ならびに社会保障分野との研究交流が進められることが期待されよう。（佐藤龍三郎記）

2002年度日本建築学会大会（北陸）

2002年度日本建築学会大会（北陸）は、2002年8月2日～4日の3日間にわたり、金沢工業大学（石川県石川郡）を主会場として開催された。「劣化と再生：地球・地域・建築・生命の新たな関係」をテーマに、学術講演のほか、シンポジウムや研究協議会、パネルディスカッション等多彩なプログラムのもと、多くの参加者により活発な議論が行われた。また、記念シンポジウムや講演会が金沢市内各所で開催され、会員のほか多数の一般参加者を迎え盛況であった。記念シンポジウムのひとつ「よい建築と環境をつくるために社会システムはどうあるべきか」のテーマ設定によく表れているように、本大会においては、ハードのみならず、ソフトの劣化・再生により大きな関心が寄せられている。

学術講演では、人口を直接にあつかう研究報告は少ないが、おもに都市計画部門において、土地利用との関連から、都心の人口動向、人口と就業者分布の予測、人口移動に関する興味深い報告があった。世帯や家族については、高齢期における家族と住まい方の変容過程をサポートネットワークという視点から分析したものが建築計画部門を中心に多数報告された。また、建築経済・住宅部門においては、世帯の成長過程や転居行動などに関する報告を集めたセッションが設けられ、住宅の地方性や自治体の住宅政策について議論が交わされた。筆者は同部門において高齢者の世帯変動の地域差に関する報告を行った。

大会を通して、計画分野においては、人口減少時代を見据えた建築・都市計画という姿勢がこれまでよりも明確に打ち出されている印象を受けた。人口減少社会への対応、サステナビリティなど、建築・都市計画の現場では新しい手法の模索が続いているようである。（小山泰代記）

第12回日本家族社会学会大会

日本家族社会学会（会長：石原邦雄・東京都立教授）の第69回大会（大会実行委員長：直井道子・東京学芸大学教授）が2002年9月21日（土）～22（日）の2日間にわたって小金井市の東京学芸大学で開かれた。初日の午前から2日目の午前にかけて2つのテーマセッションを含む12のセッションで40以上の研究報告がなされ、2日目の午後には「『現代社会における家族ならびに結婚の意味を問う』パートⅠ 現代社会における結婚の意味とは何か」と題されたシンポジウムが行われた。学問分野の